

参加者：

<学校運営協議会>

川島委員、原委員、松田委員、徳川委員、山下委員、前田委員、早川委員

<校内委員>

平山校長、原口教頭、田島教諭、徳永教諭、末松教諭、下田教諭

（１）学校長挨拶

ご出席と日頃からのご理解ありがとうございます。普通科改革を少しずつ進めているところで、成果として連携機関やサポータの方々に関わっていただく中で活動の幅が広がっています。コンクール等で良い成績を収めているグループもあります。早稲田大学が取り組まれている活動に参加し、地域探究を深めていければ、と思っています。学校では三年生の総合型選抜が終わり、推薦書の中で高校生活の中で取り組んだこと、成長や成果、大学での学びにどうつなげるか、が書かれており、感銘を受けています。本校が大事にしてきた探究活動の強みなのだと思います。普通科改革 1 年目の生徒が来年度三年生になるので、あらためて体制等を考えていきたいです。忌憚ない意見をお願いいたします。

（２）学校からの報告

①学校評価中間評価について（原口教頭）

<資料 中間評価をもとに>

学力の向上	どちらも B
-------	--------

※ 7 月の相互授業参観の参観者数が少なかったため、教師の指導力向上の取り組みが十分でなかったと考えたため。

※ 総合型が落ち着き、これから学校推薦型に入っていく、その佳境ということで B という評価。

心の教育	A
------	---

業務改善・教職員の働き方改革の推進 どちらも B

※ 9 月 20 日時点で年休 10 日以上を取得は 5 名のみ。5 日未満が 13 名いたこと、長時間勤務も多く、100 時間超の職員も 1 名いたことを含めて評価した。

※ 定期健康診断と人間ドック受診が 8 割程度。

特別支援教育 スクールカウンセラーによる講演予定 12 月

唯一無二の誇り高き学校づくり B

※ 45%（7 月時点）で、前年度より 5% 増となっており、企業や大学との連携等、2 学期にさらに活動が活発になっているが、今の時点では B という評価。

地域に信頼される学校づくり A

今後は生徒・保護者・教職員にアンケートを行い、それをもとに最終の評価をしていきます。

運営委員の皆さんにお願いは、右の欄に評価をお願いしたいと思います。

< 質問等 >

Q 1 A 委員：100 時間を超えられた先生は部活動ですか？

A 1 原口教頭：県の専門委員長で、本校の業務もあり、超過されていました。

Q 2 B 委員：本の貸し出しが目標達成できないのが例年出ているが、今年は図書館来場が増えていて、どんな取り組みをされたんですか？

A 2 原口教頭：ビブリオバトルを行うことに関連して、春から声掛けをして、その関連で増えているのかな、と思います。

②学校魅力化アンケート結果について（田島教諭）

（資料 2 ページ）

全国共通のアンケートをしていて、全国平均と比べられる。年に 2 回。1 回目は 7 月。その結果です。

結果としては黒塗りのところが今年度、すぐ右側が全国平均、その右が比較した結果。全国と比較すると本校が上回っている。5 つ目の「自主的に調べ物や取材を行う」と 7 4 番目「授業で興味・関心を持った内容について、調べ物を行った」、6 1 番目「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる」、7 5 番目「授業の内容について、『なぜそうなるのか』と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした」は特にポイントが高かった。1 0 %を超えているのがこのあたりで、自主性の伸びが感じられる。主体的に行動できる生徒の育成に力を入れているので、よかったと思う。下がっているものもあるが、少しずつ（9 0 番目「この学校を中学生にすすめることができる」と 6 6 番目「この学校に入ってよかったと思う」）は上がってきている。経年経過はほとんど上昇しているが、7 番目「グループで協力しながら学習や調べ物を行う」が低下している。1 年生のグループ活動が個人活動に変わったのが影響しているかもしれない。予算の関係で去年行ったフィールドワークが実施できていないことも影響しているかもしれない。外部の方を招いてお話いただく機会を多く設けたので、社会的な問題を身近に感じ、主体的に捉える生徒が増えたように思う。

県内の他の高校と比べると、唐津西高校はほとんどの項目で上回っている。

ただ、重点目標は他の学校の方が高いこともあり、「楽しい高校」を目指すことの必要性も感じた。

外部の人へのアンケートを取る必要があるため、本日配布資料の QR コードから回答をお願いします。

③先進校視察報告（田島教諭）

11 月 7 日に徳永教諭と 2 校訪問した。

○仙台向山高校

三菱未来育成財団の助成金対象校で、探究プラスキャリアプランニングに取り組まれている。

学年ごとの活動では 1 年時に読書に力を入れ、探究活動を行い、2 年時にグループでブックトークを行うなど、1 年時の活動を進化させている。さらにアカデミック・インターンシップを行っている。3 年時は進路実現に向けて取り組まれていた。アカデミック・インターンシップでは、約 30 グループが近くに複数ある大学に行き、講義を受けるなどしている。印象に残ったのは、自身の興味のある分野を早く見つけるように支援されていた点であった。

○角田高等学校

行政との結びつきが強く、県から予算が多く与えられていて、学校運営協議会の委員さんを色々なところに連れて行かれていた。学校運営協議会は3つの部会に分かれており、実質的には3年生の面接指導などを行ってもらっているそうだ。学校運営の方針を諮る位置づけになっていた。「角高夢 Project」では、各学年の探究の内容をコアメンバーで考えているが、業務負担が大きい。本校（唐津西高校）の地域探究のような内容で行っていて、3年生は進路指導がメインであった。進路が決定した生徒から探究活動を再開する運用をしている。視察を通じた気づきは、角田市にある1つの高校として、予算でも事業でも多くの支援を得られており、学校負担は減っている印象であった。

○その他

11月7日に訪問をして、前日には「閑上の記憶」を訪れた。コミュニティスクール全国大会が仙台で行われていたため、参加したところ、小中学校のコミュニティスクールがメインであったが、学校運営協議会等のワークショップをあり、参考になった。

<意見等>

Q1C 委員:2校について、探究活動が子供たちの進路につながっているのか？その還元として受験生が増えたなどはあるか？

A1①田島教諭:向山高校はキャリアプランニングをしていて、3年時の進路につなげていた。受験生の増加についてはわからないが、読書を通じて生徒が進路に結びつけるという形をとられていた。

A1②徳永教諭:どちらの高校ももっと広い視野を持たれていて、生きる力、たくましい力を育むことを目指されていて、探究活動というプロセスを理解できれば、各自がすすめていける、という発想であった。進路とリンクさせた探究活動という形がよいのか、もっと遠くを見据えた活動の形がよいのか、はまだ答えが出なかった。

Q2D 委員:西高の探究というのが大前提であって、キャリア教育とはまだ違う気がしたが、相違点や取り入れていきたい点などは？

A2田島教諭:探究とは学力とは違う力であり、進路に結び付くというより、副次的に色々な力がついて進路に結び付くという感じだと思う。どの学校も進路のための活動という風になりがち。来年度は2コマあるので、そのヒントがもらえたら、と思った。

D 委員：もっと先を見据えた探究というものがあってよいと思う。やり方や地域の特色があると思うけど、唐津の地域の特色を生かしていければ、と思った。

E 委員：動き出しが遅かった、と子供たちが話しているのをよく聞く。自分がやりたいことに気づくための探究があれば、うまく受験に結び付く、というのが理想。そういう仕掛けができたらよいな、と感じる。

B 委員：進路のためなのか、その先のためなのか、というと、両方だと思う。福岡の県立学校では、中学校で企業訪問し、高校でその製品を使って探究をして、大学に行き、その企業にインターンシップしに行っている生徒もいる。長崎大学では、低学年からの自分からの面談希望が増えている。総合型で受験するためにいろいろな探究をして、入学後も、早めに先を見据えた動きが見られるようになった。自分の思いを自分の言葉で言語化するというのが苦手な生徒が多いので、ビブリオバトルのような機会が、総合的に力になっていくと感じる。

F 委員：角田高校は県立だと思いますが、探究活動の支援があるのか？

田島教諭：市の主催に生徒を参加させる形をとっている。

D 委員：それなら唐津でもできるのでは？

E 委員：唐津西高校だけが対象ではないが、地域ビジネスアイデアプロジェクトも行われている。

F 委員：唐津は各校特色ある活動をされているから、予算が潤沢にあって、活動が豊富にできれば。

徳永教諭：武雄市の企画に武雄高校の生徒が参加するというのが行われている。角田高校はそれに近い。市の事業に高校生が参加することで、教育効果、宣伝効果があるのでは。

④探究活動の取り組みについて

生徒がたくさん頑張ってやってくれている。HPにも載せているので、どうぞご覧ください。

(資料13ページ～)

・大きいものは15ページに載せていて、多くの方々に来ていただき、ラーニングパートナーとして協力いただきました。ありがとうございました。

・スポ GOMI のノウハウがわかってきたのか、上位入賞を西高が占めました。

- ・関西万博でも PR ができました。
- ・ここ最近では唐津くんちのあとの清掃活動を行いました。

<意見等>

E 委員：中学生がインスタで活動をよく見ている。商業高校や青翔もよくあげている。早稲田高校のように生徒のグループにあげてもらうのもアリ。地域の方が唐津西高校の探究活動に協力する際に、生徒の態度に対するクレームもあったけど、日頃から西高生に活動でお世話になっているから指導してくださる、という方もいらっしゃる。中学生にも活動を広報したほうが良いのでは。媒体よりも先輩からの口伝のほうが効果がありそう。

D 委員：中学生への勉強会は？

田島教諭：中学生への受験勉強支援をしています。

E 委員：夏にしたほうが良いのでは？

徳永教諭：角田高校カレンダーを町に出されていて、行事が伝わり、PR になっている。

B 委員：部活体験はあるか？

田島教諭：明日行われます。

B 委員：中学時代の先輩後輩の関係が、中学生の選択基準になったりもするので。

G 委員：孫の手活動とは？高齢者のお宅で草むしりをしたりするような。

末松教諭：今はなくなっています。

G 委員：いいなあ、と思ったのですが。

末松教諭：諸事情でなくなったようです。

E 委員：似たようなもので、猫の手活動というのがあります。猫の手も借りたい、というような。

G 委員：関わらせていただく中で、高校時代は自分で自分がわかっていないようである。興味があると思って進んでいくが、親に公務員を進められてゆらぎが生じている。自分探しで様々な経験をする中で、全然違う経験をすると白黒わかるだろうから、色々なところにおつなぎしたい。メールが返ってこない、電話で何が言いたいかわからない、ということもあるが、それもトレーニングの一つだと思うので、100%手を貸すのではなく、自分たちでボランティア先を探したりするのも大事だと思う。思った会社に入ったのにすぐやめる子もいてもったいない。

C 委員：探究を何のためにするか、というと、進路に向けた探究でとがっていくべきだと思う。進路や

推薦に強い探究というのは、学校への満足度につながると思う。先輩たちが話をして、その循環を繰り返して、西高が進路に強い学校だ、というのを前に出していけば良いのでは。

D 委員：進学だけでなく、体育系や文化系など、いろいろな分野でのとがり方ができる探究ができると良いのでは。

徳永教諭：キャリア進路進学と探究のコラボレーションについて聞いてきたが、宮城県ではあまりリンクがなかった。進学について重点的な学校もあったかもしれないが、今回の2校はのびのびとやっている印象だった。

B 委員：文科省によると、やはり進学だけでなく生き方のための探究であると思う。佐賀市の私立高校の進路（就職から難関校まで）に行く予定だが、西高の進路実績が注目されている様子。このように、ここにいると見えないことも、外から注目されている、ということもある。

C 委員：それが生徒自身の満足度につながっていないのが残念。

E 委員：西高のやり方は総合型に関してまとめ方や発表の仕方に秀でている。進学とやりたいことを並行してうまく進められていると思う。

D 委員：西高生の自信は、外から見た自分を知ることにつけていけるのではないかな。

（３）議題

①部会の編成について

C 委員：本日の議題は前回からの続きになります、企画運営部会と地域協働部会の編成の必要性の有無について。いかがでしょうか。それぞれの部会に役割は書かれているが、学校運営協議会に求める働きや効果は何ですか？明確に分かれたほうが良い意義などがあれば。

徳永教諭：学校運営協議会の働きは多岐にわたっていて、学校のマネジメントへの評価、探究活動への関わり、町づくり協議会と学校をつなぐ、等の役割があると思う。年4回の会議において、委員の皆さんのお話は前向きで建設的で感謝している。この会議自体が発展していきだろうと思う。話せば話すほど、活性化していくと思うので、今は名前だけだとしてもこの区分は残しておいて、今後それが生かされる場面が出てくのではないかな、と思う。

D 委員：形を作っておくことは大切。これから発展していく中で生かしていければ。

E 委員：残したほうが良い。先生の手が届かないところを支援していく。各部会の働きは悩みどころだが、メンバーで話したり、委員会で話して入りたいほうに入ったりするのも良いのでは。メンバーだけで話したほうが十分な時間が取れると思う。

徳永教諭：メンバーの構成や召集の仕方については相談させてもらいながら進めていきたい。部会の名

前は残して、会長と副会長にはそれぞれの部会のまとめ役をつとめていただければ。

C 委員：将来軌道的に動いていくには、それぞれの役割を分けて活動する必要があると思う。どちらかが運営、評価で、どちらかがアクセル、ブレーキ、など、話し合っていく必要がある。その役割に必要な人材を割り振るのが、完成形としては望ましいと思う。学校運営と探究活動のさらなる発展のために。

A 委員：C 委員の言われる通り、賛成。子供たちからの要望があればしたい、というスタンスなので。

徳永教諭：地域協働部会からの提案で、活動が活性化しているような学校もある。委員さんについては、来年度の委員さんのメンバー変更も加味してご相談させていただきたい。

E 委員：パッと動いたほうが早い。こちらから発信して、共感してくださる方に参加していただくなど。来年空が良いのかどうか、学校のご都合はどうか。

徳永教諭：部会を動かすことはなかなかできないので、部会の下に準備委員会をつくるなどして、段取りだけ作っていただくようにすると動かしやすいのでは。部会になると委員会を開かないといけないので。

C 委員：日当が発生するとかそういう関連もあるのか？

徳永教諭：運営協議会で決まったことを部会で進めるのだが、探究活動のバックアップとして学校運営協議会が決める時に、下準備等、動いてくれるところがあると良い。

E 委員：委員が動く時にお金がかかるから動きにくい、というのを気にされているが、それが外れた方が良いのであれば、部会の名前は残して、探究ルームを使わせてもらって、独自に会議をする等、動くこともできるのでは。

徳永教諭：私の言う準備委員会とは、誰かが声をかけて参加できる人だけが探究ルームで集まる、という感じで。

E 委員：この委員会に限らず、探究サポーターの主要メンバーで来られる人だけで集まる感じ。

田島教諭：予算よりもお忙しい中、負担感を持って参加されることを心配している。学校からのお願いをする形ならこちらの部会の人等、粹でお願いするしかないが、逆に提案という形であれば少人数でしようとかそういう形だとありがたい。どういったことをお願いしてよいのか、もこちらとして不明瞭だが、形として部会は残してもらった方が助かる。よければ部会の方で色々考えてもらって。

E 委員：いったん置いておいて、声かけをしてみて、情報共有をしてみましょう。

C 委員：動く中で部会が必要になることがあるかもしれない。

平山校長：将来的には探究ルームを使って活動いただければ、と考えています。将来的な構想としては、おっしゃっていただいたような形でお願いしたい。どうぞよろしくお願いします。

②探究サポーター規約について

C 委員：資料 10～12 ページで、12 ページの第 11 条についてが検討事項でした。規定としてこのまま残しておいて問題が出てくれば、運営協議会で検討していくような形で。よろしかったでしょうか。

（いったん議論をはずれて補足）

田島教諭：探究サポーターのところで、未来ナビについてお話をいただけますか？

E 委員：唐津市と早稲田大学、企業等で地域コンソーシアムとしてできたのが唐津ラボ。どういうプログラムを作れば色々な人がつながれるのか。つなげるための道具として、未来ナビという SNS を開発して、つながり方を考えてプロジェクトを走らせていくのが大きな柱の一つ。もう一つは、特に高校生に焦点を当てて、その中での学びと人材を育成をしようという団体として唐津ラボが先行して動いている。西高と早稲田佐賀に唐津ラボに参加してもらっている。西高の生徒さんには色々な人とつながって、それをきっかけに唐津のことを考えてほしい。高校生が探究での連携先を探し、先生方の負担を減らすという点で、SNS 開発を進めている。つながりが見えるためのツールとして、未来ナビ、というのを探究学習で使えるようにしようとしている。不特定多数の地域の方々が初めから入るのは難しいため、まずは探究サポーターから参加していただける方に入っていただきたいと考えている。

田島教諭：探究したい生徒と探究に理解のある方々と連携ができるツールになれば。

E 委員：登録された内容をもとに、AI が生徒の探究活動につながる連携先を提案するようなシステムで、つながりを学校側が把握できる。先日早稲田大学の学生と東北大学の先生が西高に来校した。今後は早稲田と東北大学の学生が西高の探究ルームに来て、なども考えられますね。

（議題に戻って）

徳永教諭：第 11 条について、できるだけ弾力をもってやっていく運用をするとして、本当に変更が必要なものについては第 4 回協議会で扱っていければ。

C 委員：（他の委員さんに確認後）そのような形でいきましょう。

③探究ルームの活用について

C 委員：現在の状況は？

田島教諭：まだ進んでいないが、担当の委員を決めることができた。床にカーペットを貼って、いい感じになっている。机といすがきれいになって、ホワイトボードを入れて、オンラインでつながれるように、モニターを入れられたら、と思っている。外部からも入りやすいようにしたい。自然とアイディアが生まれる環境づくりをしていきたい。

平山校長：机と椅子と、高性能P Cを入れようと考えている。映像編集もできるようにしたい。

D 委員：備品の寄付はできるのか？

田島教諭：生徒が楽しいと思えるようなものなどあれば。

徳永教諭：探究ルームの運用規定も将来的にはご意見を願います。

C 委員：いい部屋ができていることはアピールしてよいのでは？寄付の仕方も決めたり、備品についても。

④プレゼン大会について

田島教諭：2年生が探究活動をしているので、成果発表会を1月28日に唐津市文化体育館で実施する予定なので、ぜひご参加をお願いいたします。内容も検討中で、生徒たちが考えてくれている。午前中が探究発表、午後は講演会も考えたが、生徒たちに議論してもらって、パネルディスカッションなど、探究が楽しいと思えるような活動をしたいと思っている。キャパは390名くらい入れる。生徒たちだけで300名なので、運営協議会の委員さんや保護者や中学生など、できるだけたくさんの人に来てもらって学校のPRにつながれば、と考えている。審査も外部の方をお願いしようと思っている。

D 委員：学校ではできないのか？

田島教諭：学校でもできないこともないですが、環境的にも外部でしているという雰囲気を出すのも良いのではないかと。

E 委員：違う環境でやるのも良いことだと思う。

田島教諭：チラシも作成してもらいました。

E 委員：生徒が話し合っ、チラシは外部にお願いしたいということで、西高卒業生の方がチラシを作成してくださった。

C 委員：当日は選ばれたグループが発表して、審査委員によって順位を決めるのか？

田島教諭：コースごとの代表グループが発表して、順位を決めて、表彰できれば。

C 委員：合唱コンクールみたいで楽しいだろう。

G 委員：一般の方でも入れるのか？

田島教諭：キャパの問題もあるので、ゆくゆくは。

C 委員：ゆくゆくは中学生にも来てもらえたら良い。

平山校長：学校でするより学校の成果発表会として、できるだけたくさん来てもらいたい。

⑤その他

特になし。

C 委員：これで協議を終わりたいと思います。

原口教頭：活発な意見をありがとうございました。

（４）今後の予定

第４回 令和８年２月１３日（金）15:00～17:00

（５）その他

特になし